

国連大学公開シンポジウム「福島第一原発災害の人々と社会への影響 ～これまでの教訓とこれから学ぶべきこと」のお知らせ

2016年2月16日（火）、国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）は、東日本大震災と福島第一原発事故が人々や社会にもたらした影響に着目しながら、これまでに得られた教訓とこれから学ぶべきことについて考える公開シンポジウムを福島市にて開催いたします。

本シンポジウムでは、UNU-IASの研究・発信事業「FUKUSHIMA グローバルコミュニケーション（FGC）」が重点的に取り組んできた（1）避難問題と生活再建と（2）リスクコミュニケーションという2つのテーマにおける研究成果と政策提言を発表いたします。

原発事故がもたらした大規模な避難は、国内避難民が途上国だけの問題ではないことを知らしめました。災害後の初期対応から復興への移行期において、避難者は生計手段を立て直しながら新しい環境に適応するという二重の困難に直面しています。それぞれの状況に応じた解決策を避難者自らが見出すための支援策、更に避難者と受け入れコミュニティの相互理解を促すための具体策が必要です。原発事故はまた、一部の人々の孤立化に伴う情報格差、放射線リスクに対する認識の違い、復興過程における必要情報の多様さなど、原子力災害に関連したリスクコミュニケーションに関する課題を浮き彫りにしました。対応策として、個々人の状況に配慮した関係者間の対話などの取り組みが一層重要になっています。

研究者による発表の後、行政・学界・市民社会の代表者を交えてのパネルディスカッションや、参加者との質疑応答を通して、多様な見地からの議論を促します。

「福島第一原発災害の人々と社会への影響～これまでの教訓とこれから学ぶべきこと～」

日時：2016年2月16日（火）、10:00～12:30

会場：コラッセふくしま、4階多目的ホールA（福島県福島市三河南町1番20号）

言語：日本語

主催：国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）

【登壇予定（順不同）】

内堀雅雄（福島県知事）

間野博（福島大学うつくしまふくしま未来支援センター 特任研究員）

井上正（一般財団法人電力中央研究所 名誉研究アドバイザー）

宮口勝美（福島県浪江町 副町長）

佐藤宏美（一般社団法人ふくしま連携復興センター 復興コーディネーター）

プログラムおよび詳細については、UNU-IAS のウェブサイトをご覧ください。

<http://ias.unu.edu/jp>

取材ご希望の方は、国連大学サステイナビリティ高等研究所、有馬（tel：03-5467-1212、e-mail：arima@unu.edu）までご連絡ください。

国連大学サステイナビリティ高等研究所（UNU-IAS）について

UNU-IAS は、サステイナビリティとその社会的・経済的・環境的側面に注目しながら、政策対応型の研究と能力育成を通じて、持続可能な未来の構築に貢献することを使命とする研究・教育機関です。UNU-IAS の活動には、「持続可能な社会」、「自然資本と生物多様性」、「地球環境の変化とレジリエンス」という3つのテーマがあります。また、国連における政策決定や議論に貢献することにより、国際社会に奉仕しています。

FUKUSHIMA グローバルコミュニケーション事業(FGC)について

東日本大震災や福島第一原発事故がもたらした長引く避難生活、生業の喪失、コミュニティの崩壊、放射能汚染と安全への懸念などの社会経済課題についての理解を深めることを目的として、2013年4月から UNU-IAS が展開している研究・発信事業です。現行の課題や取り組みを国際的な議論と関連付けて幅広く発信すると同時に、研究成果や政策提言を関係者間で共有することを目指してきました。